

入院のみ 外来のみ ○共通	適応がん種	レジメン名(略語)	臨床使用分類	抗癌剤適応分類	1コース期間
	悪性黒色腫	オブジーボ	○日常診療	術前化学療法	21日
			臨床試験審議中	術後補助療法	
			治験承認済・審議中	○進行・再発	予定総コース
		その他()		可能な限り	

☆上記のうち該当箇所○を付けてください

処方No	薬品名(商品名)、溶解液の種類と量	1回投与量	投与時間又は用法	投与日(d1,8など)	投与経路
1	生理食塩液	200mL	30分	d1	主管
2	オブジーボ	240mg/body			
	生理食塩液	100mL	30分	d1	側管
		希釈後最終濃度は0.35mg/mL以上とする			
		※体重30kg以上の総液量は150mL以下			
		※体重30kg未満の総液量は100mL以下			

留意点および急性期有害事象等	<投与基準> ※術後補助療法の場合は、投与期間は12ヵ月間までとする WBC>2000/mm ³ 、Neutro>1000/mm ³ 、Hb>9.0g/dl、PLT>100,000/mm ³ 、総ビリルビン<施設基準値上限の2倍(ジルベール症候群の患者は3.0mg/dL以下とする)、AST/ALT<施設基準値上限の3倍、血清クレアチニン2.0mg/dl以下、SpO ₂ >90%、体温<38℃ 治療開始前にHBs抗原、HBc抗体およびHBs抗体を測定し、アルゴリズムに沿ってHBV-DNA定量検査を行うこと。
	【慎重投与】 ・自己免疫疾患の合併又は慢性的、再発性の自己免疫性疾患の既往がある患者 ・間質性肺炎のある患者又は既往のある患者
	<有害事象> 掻痒症(31.4%)、遊離トリヨードチロニン減少(22.9%)、血中TSH増加(20.0%)、白血球減少(17.1%)、AST/ALT増加(14.3%)、甲状腺機能低下症(14.3%)、infusion reaction (頻度不明)、間質性肺炎(2.9%)
	<中止基準>※皮膚関連、内分泌障害以外はgrade2で一旦延期し、ベースラインまたはG1に回復するまでモニタリング ・G3以上のAST/ALT上昇 ・AST/ALT上昇又は総ビリルビン上昇が本剤での治療前より継続しgrade2段階以上の悪化が認められた副作用 ・G3以上の副作用 ・自他覚所見および臨床検査などにより、自己免疫疾患に発症が強く疑われた場合
	<その他注意> ・インラインフィルター(0.2又は0.22μm)を使用すること。 ・生ワクチン、弱毒性ワクチン、不活化ワクチンとは過度の免疫反応が起こるおそれがあるので併用注意。

参考文献	・国内第Ⅱ相試験(ONO-4538-02試験) ORR:22.9%、PFS:169日、OS:473日 ・Robert C et al.Nivolumab in previously untreated melanoma without BRAF mutation.N Engl J Med. 2015 Jan 22;372(4):320-30
------	--

夜間、帰宅時、対応医師への連絡先	外来診療中:皮膚科外来(3105) 夜間・休診日:当直医(8149)
------------------	------------------------------------